

# 農業と科学

1988  
6/7

CHISSO-ASAHI FERTILIZER CO LTD

## 昭和63年度 農業観測の概要について

農林水産省大臣官房調査課

大川 雅 央

以下は、5月30日に農林水産省が公表した「昭和63年度農業観測」の概要をとりまとめたものである。

### 1. 国内経済

62年度の国内経済は、これまでの円高の進行等により外需は減少したが、個人消費、住宅投資などの国内民間需要の堅調さと62年5月の「緊急経済対策」の効果等に支えられて、全体としては順調な回復過程をたどり、拡大局面へと移行しており、政府経済見通し(63年1月閣議決定)によると、実質経済成長率は3.7%程度になるものと見込まれている。

63年度の国内経済は、政府経済見通しにおいては、物価の安定を基礎としつつ、内需を中心とした景気の着実な拡大を図ることとしており、実質経済成長率は3.8%程度になるものと見込まれている。しかし、我が国経済は、民間活動が主体をなすものであること、また、特に国際環境の変化には予見し難い要素が多いことから、今後はアメリカを始めとする海外経済の動向、対米ドル円相場と原油価格の動き、併せて国内の財政金融政策の動向等について注視する必要がある。

### 2. 農業就業人口

農業就業人口は近年減少傾向が続いてきたが、最近では減少率が鈍化しており、62年度は雇用情勢が改善の方向に向う中で、55歳以上の就農者は男女とも増加したが、55歳未満の就農者は男女とも減少し、全体でも1.1%の減少となった。

63年度の農業就業人口は、引き続き高齢者の流入超過があるとみられるものの、高齢化による引退等や雇用情勢の改善による労働力の流出も見込まれることから、年度間では1~3%程度減少すると見込まれる。

### 3. 農業生産資材価格

農業生産資材の農村価格は、近年、円高による海外原

材料輸入価格の下落などから値下がりしており、62年度は、畜産用動物、建築資材等が上昇したものの、他の主要資材は弱含みないし落ち着いて推移したことから、2.0%安となった。

表1 主要な農生産資材価格の動向

(対前年度(同期)騰落(▲)率(%)

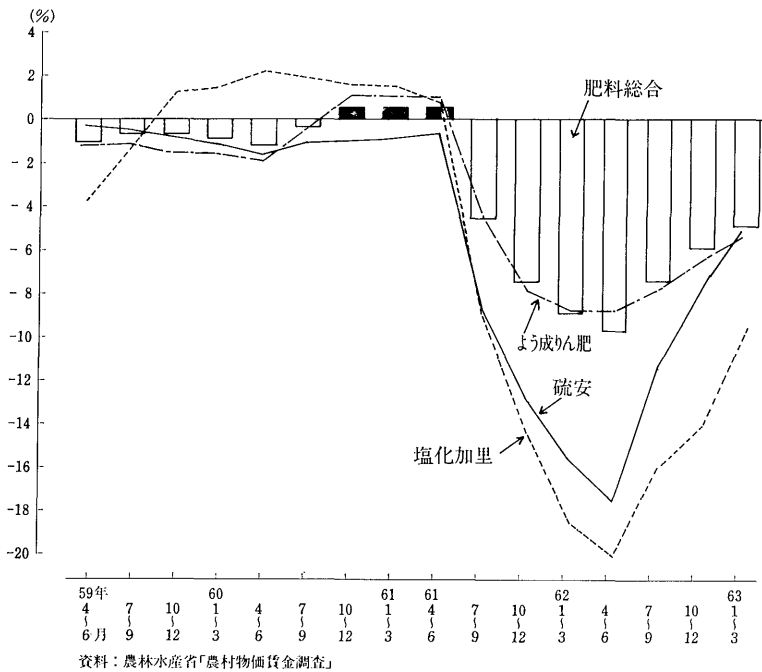
年次	農業生産資材総合					
	肥料	飼料	農業薬剤	光熱動力	農機具	
56年度	3.2	6.3	3.2	3.8	6.8	2.4
57	▲ 0.3	▲ 0.8	▲ 4.9	▲ 0.1	6.4	2.3
58	▲ 0.5	▲ 1.4	2.3	▲ 1.2	▲ 9.0	0.9
59	0.3	▲ 0.8	0.1	▲ 0.1	▲ 2.6	2.4
60	▲ 1.9	▲ 0.1	▲ 8.2	0.1	▲ 4.0	0.5
61	▲ 5.2	▲ 5.0	▲ 17.8	▲ 0.3	▲ 16.1	0.3
62(概算)	▲ 2.0	▲ 6.9	▲ 7.5	▲ 2.9	▲ 5.4	0.1

63年度については、飼料穀物の国際価格は堅調に推移するとみられ、また、原油価格は持ち直すとみられるものの、対米ドル円相場が円高傾向にあることや卸売物価が安定的に推移するとみられていること等から、総じて

## 本号の内容

- § 昭和63年度農業観測の概要について……………(1)  
農林水産省大臣官房調査課  
大川 雅央
- § LPコート及びLP複合の肥効特性と  
ワンショット®施肥による米づくりについて…(5)  
農業と科学編集部
- § くみあいパーミキュライト園芸床土用資材  
「与作V I号」の使用法……………(7)  
チッソ旭肥料(株) 技術部

図 1 肥料の農村価格 (対前年同期騰落率)



5. 農産物供給 (国内農業生産)

62年度の農業生産は、畜産生産は1.4%程度増加したものの、耕種生産が3.9%程度減少、繭生産が16.3%減少したとみられることから、農業生産総合では前年度を2.5%程度下回ったとみられる。

63年度の農業生産については、①耕種生産は、作柄を平年並みとみれば、麦類がかなり、花き類がややそれぞれ増加し、野菜及び工芸農作物が前年産並みとなり、いも類及び果実がやや、豆類がわずかにそれぞれ減少すると見込まれる。米については、「米穀の管理に関する基本計画」によれば、生産予定量(主食用等)982万トンに加え他用途利用米約47万トン、合計1,028万トン(前年度1,063万トン)の生産が見込まれている。以上のことから、耕種生産総

落ちていて推移するとみられ、年度間ではほぼ前年度並みと見込まれる。合では2%程度減少すると見込まれる。

表 2 62年度(4~12月間)に輸入数量の急増した品目

4. 農産物需要

食料消費の動向を経済企画庁「国民経済計算」でみると、実質飲食費支出は、近年、緩やかながら増加する傾向にあり、62年度も、民間最終消費支出の伸びが前年度の伸びを上回って推移していること等から、前年度の伸びを上回って増加したとみられる。

63年度の農産物の最終需要に影響する実質飲食費支出は、次のような諸要因からみると、引き続きわずかに増加するとみられ、農産物需要はわずかな増加にとどまると見込まれる。① 63年度の政府経済見通しによれば、実質民間最終消費支出は3.8%程度の増加、消費者物価指数は1.3%程度の上昇と見込まれている。② 63年度の食料品の消費者価格は、今後の円相場の動向等にもよるが、国内農業生産の動向や輸入食料品価格の動向等からみてわずかな上昇率にとどまると見込まれる。③ 最近、食料消費水準が量的に飽和状態に近づきつつあるとみられるなかで、食の外部化、サービス化の傾向が強まっております、食料消費支出は緩やかながら増加するものと予想される。

品 目	61年度 輸入金額 比率 (1万分比)	対前年 同 期 増加率	品 目	61年度 輸入金額 比率 (1万分比)	対前年 同 期 増加率
く る み	9	44.7	たけのこ(缶、ビン詰)	27	84.2
核 果(生鮮のみ、さくらんぼ)	10	149.0	チョコレート菓子	33	59.8
生 鮮・乾燥もの	7	52.3	ビ ー ル	10	72.3
メロン(マクワリ含む)	60	52.6	ぶ どう 酒 (150ℓ以上)	7	72.7
その他の生鮮果実(キウイフルーツ)	10	60.0	ぶ どう 酒 (150ℓ以下)	48	66.7
グレープフルーツ果汁	36	74.6	レ モ ネ ード 等	18	304.6
ま つ た け	5	47.0	紙 巻 た ば こ	125	180.6
桐 油	5	66.8	調製飼料(課税価格が70円/kgを超えるもの、小売容器入)	6	44.2
オ レ ン ジ 油	5	106.7	ペ ッ ト フ ー ド (10kg以下の気密容器入)	33	65.5
甘 草	6	76.1	い草、七鳥い製品	11	113.2
鶏 (生きた)	683	45.2			
豚 肉	19	102.0			
カシミア山羊の毛	128	114.3			
葉 た ば こ (バージニア種、骨除く)	15	52.7			
象 げ(粉、くず)	7	120.5			

資料：農林水産省「農林水産物輸出入の数量・価格指数」(綿、羊毛、天然ゴムを除く。55年=100)  
注：61年度の輸入金額が10億円以上で対前年同期増加率が40%以上のものを掲げた。

② 繭の生産はわずかないしやや減少すると見込まれる。

③ 畜産生産については、肉用牛がやや、鶏卵がわずかにそれぞれ減少するとみられるが、生乳がやや、豚及びブロイラーはわずかにそれぞれ増加するとみられ、全体では1%程度増加すると見込まれる。以上のことから、農業生産総合では、前年度に比べ1%程度減少するとみられ、米を除く農業生産総合では、ほぼ前年度並みと見込まれる。

**(農産物輸入)**

農林水産省「農林水産物輸出入の数量、価格指数」により農産物の輸入量をみると、近年、総じて増加傾向で推移しているが、62年度(4~12月間)は、肉類、コーヒー、飲料等が大幅に増加し、全体では12.7%増加した。

63年度の農産物輸入量は、今後の円相場の動向等にもよるが、需要が堅調な肉類、飲料等が引き続き増加するとみられ、全体ではかなりの程度増加するとみられる。

**6. 農産物生産者価格**

62年度の農産物生産者価格は、野菜は天候が不順だったこと等から16.5%上回ったが、果実がみかんの豊作から9.8%下回り、畜産物も7.5%下回ったため、農産物総合では1.9%下落した。

63年度については、需給が総じて緩和基調で推移するとみられることから、前年度をわずかに下回ると見込まれる。主要品目についてみると、① 野菜は、夏秋野菜がほぼ前年度並み、春野菜、秋冬野菜がわずかに下回るとみられ、全体ではわずかに下回ると見込まれる。② 果実については、みかんがかなり、りんごがやや、ぶどう及び日本なしがわずかにそれぞれ上回るとみられ、全体ではやや上回ると見込まれる。③ 繭は、かなりないし大幅に上回ると見込まれる。④ 畜産物は、鶏卵がやや上回るとみられるが、肉用牛及び生乳がわずかに、肉豚及びブロイラーがかなりの程度それぞれ下回るとみられ、全体ではわずかないしやや下回ると見込まれる。

**7. 農業生産額**

農業生産額は、米の単収が史上最高となった59年度をピークに、以降、農産物生産者価格が横ばいしないし低下傾向にあったこと等を反映して微減傾向にあり、62年度は前年度に比べ4.4%程度の減の12兆6,000億円程度になったものとみられる。農業純生産(生産農業所得)は、生産に投下された物的経費の変動によって若干の違いはあるが、農業生産額の動きにおおむね対応して変動しており、62年度は前年度に比べ6.5%程度の減の4兆8,300億円程度になったものとみられる。

63年度の農業生産額は、平年作を前提とすれば、農業

**表 3 農業生産額等の推移**

	農業生産額		農業純生産	
	実数(億円)	対前年度増減率(%)	実数(億円)	対前年度増減率(%)
55年度	116,163	▲ 1.6	49,790	▲ 13.7
56	121,917	5.0	49,685	▲ 0.2
57	121,541	▲ 0.3	49,107	▲ 1.2
58	124,964	2.8	48,988	▲ 0.2
59	133,510	6.8	53,716	9.7
60	132,558	▲ 0.7	51,390	▲ 4.3
61	131,768	▲ 0.6	51,665	0.5
62	125,970	▲ 4.4	48,283	▲ 6.5
(見込み)				

資料：農林水産省「農業・食料関連産業の経済計算」

注：62年度は官房調査課で試算した。

生産は1%程度減少し、農産物価格はわずかに下回るとみられることから、前年度に比べわずかに減少すると見込まれる。農業純生産については、生産資材等の中間消費は、農業生産資材の投入量がわずかに減少し、価格がほぼ前年度並みとみられることから、わずかに減少すると見込まれる。このほか、固定資本減耗はほぼ前年度並み、経常補助金は減少するとみられること等から、農業純生産はわずかに減少すると見込まれる。

**8. 海外農産物需給**

1980年代に入って過剰の様相を強めながら推移してきた世界の穀物及び大豆需給は、1987/88年度に入ってから改善の兆しが見え始めている。

国際取引指標であるシカゴ相場は、1987年秋頃からそれまでの長期低迷傾向から強含みに転じ、品目により程度の差はあるものの、小麦、とうもろこし、大豆等おしなべて前年水準を上回って推移している。

一方、世界の米需給は、1987年6月以降、南西、東南アジア諸国が数十年ぶりといわれる大干ばつや洪水被害に見舞われたことから、既にひっ迫傾向で推移している。

1988/89年度については、以下のとおりである。

**(1) 小麦**

世界の小麦生産量は、小麦価格が堅調に推移していることもあり、天候が順調に推移すれば前年度をやや上回るとみられるものの、消費量を下回ると見込まれる。このため、在庫量は減少するとみられ、需給改善が引き続き進むとみられるが、在庫水準は依然高いことから、当面需給は過剰基調で推移すると見込まれる。

**(2) 飼料穀物**

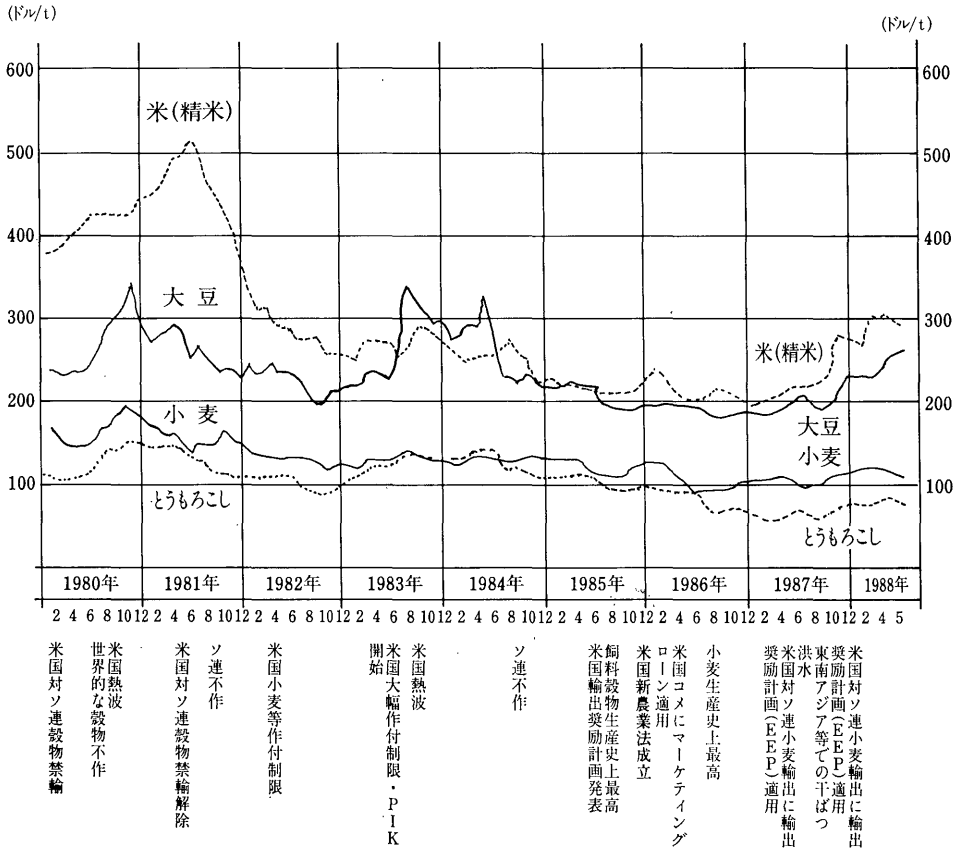
飼料穀物生産量は、世界の生産量の約3割を占めるアメリカの生産がわずかに増加するとみられること、西欧でもやや増加するとみられること、さらに昨年干ばつ被

害に見舞われたタイ、東欧で回復するとみられること等から、わずかに増加するとみられるものの、消費量を下回ると見込まれる。このため、在庫量は減少するとみられ、需給改善が引き続き進むとみられるが、在庫水準は依然高いことから、当面需給は過剰基調で推移すると見込まれる。

(3) 大豆

大豆生産量は、ブラジル、アルゼンチン等で増加するとみられることから、前年度をわずかに上回るとみられ、消費量もわずかに増加すると見込まれる。しかし、需給は在庫水準が低いことから引き締め傾向で推移すると見込まれ、生産動向によってはひっ迫に転じる可能性もあるとみられる。

図 2 国際価格の推移 —小麦、とうもろこし、米、大豆—



注：1) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場の期近価格(各月第1金曜日)である。  
 2) 米は、タイ国貿易取引委員会(BOT)の公表価格(タイのうち精米、砕米混入率10%のFOB価格)である。

# LPコート及びLP複合の肥効特性と

## ワンショット®施肥による米づくりについて

農業と科学編集部

### 1. くみあいLPコート(被覆尿素)について

くみあいLPコートは、粒状の尿素をオレフィン系の樹脂で特殊なコーティングをすることにより成分の溶出速度を自在にコントロールした新しいタイプの肥料です。

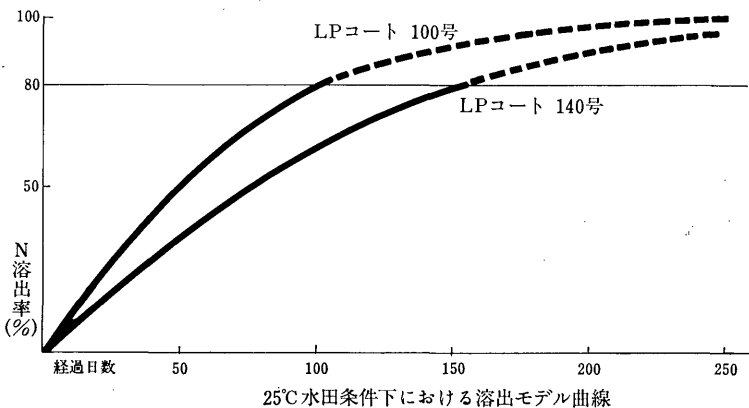
#### 1) LPコートの銘柄

LPコートは40.0%のチッソ(N)を保証しています	
LPコート 100(D)号	土壌温度25℃の時、Nが80%溶出するのに約110日かかる
LPコート 140(E)号	土壌温度25℃の時、Nが80%溶出するのに約150日かかる

以上の他に、LPコート30、LPコート40、LPコート50、LPコート70、LPコート180の各号があります。

#### 2) LPコートの特長

- ① 肥料成分が少しずつ溶けて出るので、ゆっくり効き、損失が少ない肥料です。
- ② 土の種類、酸性(PH)の程度のちがいなどによっては、成分の出かたにほとんど影響ありません。
- ③ 樹脂および溶出調整剤による被覆の割合によって、肥料成分の出かたを調節できるので肥料持続時間のちがうものをつくる事が出来ます。



### 2. くみあいLP複合(被覆尿素入り複合)444について

くみあいLP複合444は、LPコートの他に速効性のチッソ(初期生育に必要な分として)とリン酸成分及びカリ成分をあわせもっており、基肥一回施肥のみで米づ

くりが出来る様につくられた肥料です。

#### 1) くみあいLP複合444の銘柄

銘柄	チッソ			リン酸	カリ	含有するLPコートの種類と率
	T-N	A-N	LP-N			
LP複合444-D80号	14.0	2.0	12.0	14.0	14.0	LPコート100、Nのうち80%
LP複合444-E80号	14.0	2.0	12.0	14.0	14.0	LPコート140、Nのうち80%

#### 2) くみあいLP複合444の特長

- ① この肥料は省力高位安定生産を目標に製造した水稻専用肥料です。
- ② この肥料にはチッソ成分が全部で14%含まれていますが、そのうちの80%(N=12.0)がLPコート100又はLPコート140のチッソです。
- ③ したがって基肥の時に追肥に用いる成分もあわせて一度に施用することができ、穂肥時の労力が省略できます。
- ④ 基肥時に追肥の量をあわせて一度に施用しても110日以上又は150日以上かかってジワジワと溶出するために、生育は過剰とならず健康な稲の姿勢で経過しますので稔のよい稲ができます。
- ⑤ LPチッソの溶出が緩慢ですので植物体の吸収利用率が高いことから、施肥量の節減が可能です。(10%~20%)

#### 3) くみあいLP複合444の適するところ

- ① 砂土、砂壤土など肥料の吸着保持力の弱い水田。
- ② 稲の初期生育が過繁茂になり、倒伏、秋落ち等により品質が低下したり、収量が不安定になりやすい地帯。
- ③ 基盤整備などで、一時的に地力が低下したり、あるいは地力そのものが乏しいか、不均一なため、稲がムラできる様な水田。
- ④ 労力不足、あるいは他作業との競合で、追肥労力を省きたい場合。
- ⑤ 他、暖地一般の機械植の稲作及直播栽培の稲作。

以上のように、省力・良質・安定多収の稲作肥料として、あらゆる地帯に適します。

### 3. LP複合444の使用法

1) 10アール当たり施用量(施肥は1回のみ、追肥は原則として施しません。)

移植栽培	50~60kg	チッソ リンサン カリ 7.0~8.4 7.0~8.4 7.0~8.4	LP444-D80又は LP444-E80を使用
直播栽培	60~70kg	8.4~9.8 8.4~9.8 8.4~9.8	LP444-E80を使用

※ これは基準量ですから土壌条件、品種等によって適宜増減してください。一般の化成肥料との比較では、全チッソ施用量の10~20%減肥も可能です。

#### 2) 施肥法

側条施肥田植機による施肥については全く問題はありませんが水が動く様な条件下(代かき時など)での施用はさしてください。

### 4. LP複合を使ってのワンショット®栽培による米づくりのポイント

一稲の身になって稲の力を引き出す米づくり

1) 安定(多収)栽培の要点は……

- ① 根の生背が最後まで健全である様にすること。
- ② 地上部の発育に支障がなく、病虫害の被害がないこと。
- ③ 養分の供給が適当で稲がほしい時に、ほしい量が吸収されること。
- ④ 無駄な生育をさせないこと。
- ⑤ 天候が順調で充分に光線が受けられる状態にしてやること。

#### 2) 生育停滞期=ラグ期の肥効について……

この時期の肥効は、地力がある場合や土づくりが充分に行われている場合は特に問題はありませんが、そうでない場合は、ある程度の養分補給が必要です。しかし、効かせすぎると、下位節間の伸長を助長することになり、倒伏に結びつく危険性があります。従って施用量の決定や施肥時期の決定は非常に難しいものがあります。一般の化成では、この点特に難しい面がありますが、この問題はLP複合を基肥に全量施すことにより解決します。

#### 3) 穂肥の適期適量施用をどうする……

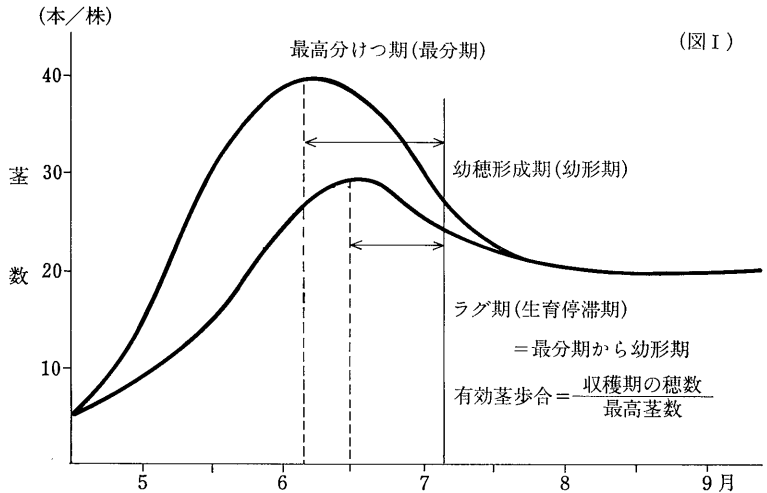
一般の化成を用いても分施回数を多くすることによ

り、ある程度は問題なく経過しますし、又、現実の状況でもあります。しかし、このことは全ての稲に当てはまるでしょうか。特に大面積を作付けている方々、兼業の方や他作物との複合経営をしておられる方々にとっては全ての稲に対する穂肥の適期適量施肥ということは最も困難なことですが、このこともLP複合を利用することにより解決します。

#### 4) LP複合でつくった稲の生育について

##### ① 茎数の推移はどうなる……

LP複合444の中には速効性の成分(活着用一初期生育用)が20%しか含まれていません。これはこの肥料を全量元肥に施しても同じことです。従って一般的な慣行の施肥法(基肥重点)の場合と比較しますと、有効茎数が確保出来る迄の茎数の推移は著しく異なります。(図1参照)



茎数の推移とラグ期の長さ(日本晴) — 滋賀県 —  
(A型はB型より一穂もみ数が少ない)

図1は、供試肥料としては一般の化成を用いた場合で茎肥に全施用量の半分(N=6kg/10a)を施した場合(A型)と基肥に全く施肥しなかった(最分期迄N=0)場合(B型)との茎数の推移の比較です。A型の場合、茎数の増え方が速く本数も多いので、いかにも生育良好の様に見受けられますが、最高分け時期が早くなってラグ期も長くなっています。稲の幼形期は、同一品種の場合スタートが同じであれば、ほぼ同時期になるわけで分けつ数が多く、ラグ期が長いことはそれだけ無駄(無理な)生育をさせていることになります—有効茎歩合が低くなる—。

B型の場合、A型に比較して、いかにも貧弱に見受けられますが、最高茎期迄時間がかかるだけラグ期が短かく必要な有効茎が確保されていることを見ますと、それだけ無駄な生育をしていないということが云えます。

一有効茎歩合が高くなる一。(表I参照) さらに後期に施肥することにより、収量面で高い結果となっています。

基肥無窒素のイネは穂首分化期のつなぎ肥を十分にやれば、モミ数が増える(滋賀短大)

N 施肥法 (kg) a. b. c. d. e. f.	m <sup>2</sup> 当たり 穂数	1 穂 モミ数	登 熟 歩 合	a 当 り 収 量	有 効 茎 歩 合		昭 和 56 日 本 晴
					%	kg %	
6-2-0-0-2-2	412	73.8	82.2	57.3	59	0.86	昭 和 56
0-0-4-0-4-0 (1)	407	78.6	86.5	62.0	74	0.98	日 本 晴
0-0-4-2-4-0	415	78.4	88.0	65.9	75	1.01	
6-2-0-0-2-2	438	65.9	91.0	59.3			昭 和 57
0-0-4-0-4-0 (1)	432	66.0	89.5	58.0			日 本 晴
0-0-4-0-4-0 (2)	481	69.7	89.7	65.0			
0-0-4-2-4-0	476	65.7	94.8	64.5			

a. 基肥, b. 分けつ期, c. (1)は最分期 (2)は最分期+10日, d. 穂首分化期, e. 穂肥, f. 実肥

LP 複合 444 をワンショット施肥(全量基肥 1 回のみ) しますとこのB型とほぼ同様な曲線を描き、収量面でも問題はありません。

この時期に、生育スピードが遅いから、色が薄いからといって速効性のチッソを施すことは(施肥ムラなおしは別としても)一時的に濃度を高めることになり、安定した養分の吸収をさまたげることになり、無効分けつを促進したり、下位節間の助長を促すことにもなりかねない—倒伏の危険性をひきおこす—ので絶対にさけてください。

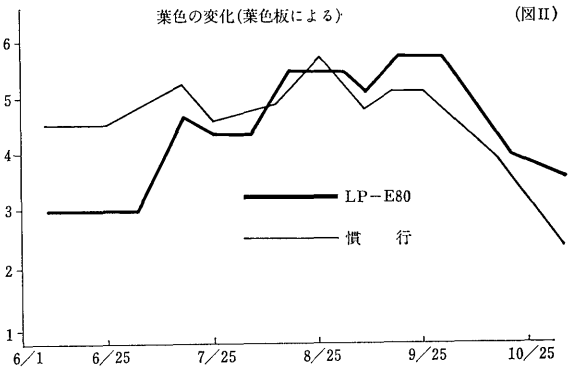
② 葉色の変化はどうなる……

稲の葉色は養分(主としてN)の吸収量が多いか少いかによって濃淡の差が出るし、吸収の形態によっても差が出るものです。又、一定の条件下であれば生理的に自然に変化するものです。(イネに三黄あり)。

無肥料で米をつくっても余程のことがない限り60~70%程度の収穫はあるもので、必要な時期に必要な養分を吸収出来る条件さえつくっておけば葉色は自然に変化するもので気にする必要はありません。(米は葉色の変化でつくられるものではありません)。

LP 複合の基肥一回施肥で作った稲の葉色変化は図IIの通りです。

ラグ期に至るまでの葉色は慣行に比較してかなり淡く経過しており、速効成分が少ないだけLPのタイプが長いもの程その傾向は強くなっています。が収量面において全く問題ははありません。



## くみあいバーミキュライト園芸床土用資材

### 「与作V I号」の使用法

### チッソ旭肥料(株) 技 術 部

1. 与作V I号は、腐葉土や完熟堆肥の代りに土と混合するだけで、果菜類、葉菜類及び花き類の健苗育成が可能な培養土(床土)が作れる、育苗床土用資材です。

2. 与作V I号の組成と特性

① 与作V I号は、土壌改良効果の高いバーミキュライトとピートモスなどの素材に肥料養分を吸着させた資材です。(第1表)

② 与作V I号は腐葉土に似た性質を持っています。(第2表)

③ 与作V I号と土で作った床土の保水力は大きく、通気性もよくなります。さらに肥持ちもよくなり、

理想的な園芸床土を作ることができます。

第1表 性 状

形状	見掛 比重	pH (1:5)	EC (1:5)	水分 30°C-6m	肥 料 成 分							
					※ チッソ	リンサン	カリ	石灰	苦土	マンガン	ホウ素	
粉粒状	0.35	6~7	1~1.5	約30%	0.16 (g/ℓ) (0.5)	1.26 (g/ℓ) (4.4)	0.1 (g/ℓ) (0.4)	0.2 (g/ℓ) (0.7)	0.09 (g/ℓ) (0.3)			

※チッソ成分は、アンモニウム態チッソ40%とCDU態チッソ60%です。

第2表 与作V I号と腐葉土との理化学性の比較

床土資材	見掛比重	全孔隙率	気相率	液相率	塩基置換容量
与作V I号	0.35	89%	52%	37%	51me
腐葉土※	0.20	90%	52%	38%	98me

※荒木浩一：農業および園芸50 (5) 670~674, 1975

3. 与作V I号の使用法

① 床土に使う土の準備

イ) 与作V I号に混合する土は山土や田畑の土が使用出来ませんが、同じ種類の野菜などを栽培した田畑の土は病害の恐れがあるので、消毒をしてから使用してください。

ロ) 土は荒くだし、1~2cmの篩に通してください。

② 床土の作り方

イ) 容積比で与作V I号1に対して土を2~3の割合で混合します。

ロ) 使用する土の質(透水性や保水性)が悪い場合は、与作V I号と土の混合比を1:2にするなど与作V I号の使用量を多くすると良いでしょう。

ハ) 育苗する作物に適した混合割合と管理の目安は第3表を参考にして下さい。

ニ) 土壤消毒をする場合は、土だけを消毒し、与作V I号の消毒や、混合後の消毒はさけてください。

第3表 土との混合割合と育苗管理のめやす

作物	混合条件		育苗床土		鉢上げ後の育苗日数	※肥料添加の要・不要	水管理の注意
	混合比(容積)	混合土壌の注意	使用量ℓ	針の大きさcm			
トマト	1:2~3		0.9	12	20~50	●	
ナス	1:3		0.9~1.2	12~15	40~80	●	
ピーマン	1:2~3		0.9~1.2	12~15	30~70	● (ただし追肥)	
キュウリ	1:2~3	透水性の悪い 埴質土の使用は避ける	0.6~0.9	10~12	20~30	○	控えめに
メロン	1:2	透水性の悪い 埴質土の使用は避ける	0.8~0.9	10~12	20~30	○	控えめに
スイカ	1:2~3	透水性の悪い 埴質土の使用は避ける	0.3~1.2	9~15	20~45	○	控えめに
カボチャ	1:2~3		0.3~1.2	9~15	20~30	○	
イチゴ	1:2~3	砂壤土など透水性の良い土を使用する	0.9~1.2	9~15	75~90	●	
レタス	1:3		0.05~0.1	(ペーパーポット)	20~30	○	
セロリ	1:3		0.3~1.2	9~15	20~40	●	

※ 地域の指導基準に従ってください。

● 一般的に肥料添加が必要とされる作物です。

○ 一般的に肥料添加が必要ではありませんが、生育後期にこえ切れが見られる場合は追肥してください。

③ 肥料養分の施用

イ) 与作V I号には、肥料養分が添加してありますが、床土の量および混合割合によって、鉢当りに含まれる肥料養分量がかわってきます。

9cm, 12cm, 15cm各鉢の床土に含まれる肥料成分量は第4表の通りです。これ以外の大きさの鉢を使う場合は、第5表によって肥料養分量を換算してください。

第4表 鉢の大きさ別の床土に含まれる肥料成分量

鉢の大きさ	床土量 ℓ/鉢	混合比 1:2容			混合比 1:3容		
		チツッg	リンサンg	カリg	チツッg	リンサンg	カリg
9cm(3寸)	約0.3	0.05	0.44	0.04	0.04	0.33	0.03
12cm(4寸)	約0.9	0.15	1.32	0.12	0.11	0.99	0.09
15cm(5寸)	約1.2	0.20	1.76	0.16	0.15	1.32	0.12

第5表 床土1ℓ当りに含まれる肥料成分量

混合比 与作V I号:山土	チツッ	リンサン	カリ
	g/ℓ	g/ℓ	g/ℓ
1容 : 2容	0.17	1.47	0.13
1容 : 3容	0.13	1.10	0.10

ロ) 与作V I号に含まれる肥料養分は、育苗期間の短い作物(キュウリ, メロン等)に必要な最少量です。従って指導基準(または慣行法)にくらべ明らかに不足する場合は、育苗する作物に適した量を元肥または追肥で補ってください。

④ 育苗上の注意

イ) 鉢詰めから播種または移植までの作業

床土の鉢詰めは、少なくとも播種または移植時の2~3日前に行い、詰める土の量は、鉢の上部いっぱい(ただし追肥)に軽く詰めてください。その後、鉢の底から水が出てくるまで十分灌水をしたあとビニールシートをかけ、育苗するハウス等の場所に移してください。

ロ) 播種または移植後の灌水

与作V I号は、保水性が優れていますので、慣行法よりやや控えめ(床土が乾かない程度)に灌水するとしっかりした苗ができます。

以上